

# 水無月 愛南文芸

## さわらび短歌会

杭を打つ響きにも似る水鶏鳴く  
明け方に聴く胸に沁む声  
停車せしバスに手を振り小走りの  
老いが乗るまで待つ運転手  
天国に無二の親友送りたる  
夫の張りなき肩をなでやる  
孫が来て朝から回す洗濯機  
小さきズボンを春風揺らす  
花冷えに日影のわが家深として  
寒暖の差は吾の身にしむ  
購ひし少々高価なボールペン  
思考の通路となり紙面を走る

前田 知子  
岩村千代子  
河上 明美  
門屋あけみ  
前田 昭夫  
藤井 擴

墓仕舞いなしして小さき悔いありて  
ひと日の長し父の命日  
修理より戻りしミシンの音軽く  
窓の向こうは桜咲き初む  
病む身には排泄さえも困難と  
三浦綾子の言葉が沁みる  
老いの日々カードを合わせ時を過ぎす  
占うほどの余命は無きに  
娘が愚痴を吐くのは稀なり  
頷きて無言で肩を強く揉みやる  
目覚めれば木々のざわめく強風に  
風力発電工事の大型車行く

前田 充  
松本マス子  
水野美代子  
澤近 正弘  
生田八寿子  
扇野八代生

## 菊川俳句会

黒潮のよせ来る浦や初鯉  
紫陽花や悲喜こもごもの老いの道  
六月を縁取る雨のグルーヴィー  
キリンのような梅雨前線上昇す  
海風を腹いっぱい鯉のぼり  
陽炎に呼ばれて洗う御影石  
新緑にせせらぎ沁みる露天風呂  
春寒し希望を胸に上り線  
芍薬の二つ三つ風動かすや

中川 一喜  
安岡留美子  
浅野勇一郎  
迦恋  
福田 りさ  
和田 靖樹  
河野 孝  
河野 清美  
宇野 天弓